

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）はしばらくの間、中止させていただきます。

★「おうちでおはなしかい」（8月）

おうちでおはなし会をはじめよう！ちっちゃいおともだち、あつまれ！当館でのおはなし会ができない間、ホームページ上でおはなし会のプログラムと関連する絵本の紹介をします。ご家庭でおはなし会をどうぞ。紹介した本は、「あかちゃん絵本」コーナーで展示しています。http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/kodomocenter/ohanashikai_web_202008

★「令和2年度 幼稚園・保育園のための子ども読書研修会」

○会場：山口県立山口図書館 レクチャールーム

○日時：10月17日（土） 13:00～15:00

○内容：【講義】「本の力を信じて～今なぜ絵本が必要か～」 講師 前園 敦子 氏

○定員：40名（要申込み、先着順）

○対象：県内の幼稚園教諭、保育士等

○申込方法：10月2日（金）までに、別紙、参加申込書により、FAX、電子メール又は電話で

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

＜絵本—乳幼児から＞

『まあるくな—れわになれ』 真珠まりこ/作・絵 鈴木出版 2020.6 ¥1200

「まあるくな—れ まあるくな—れ まあるくな—れ わになれ にや—にや— わんわん」、「き—き— がお—」、次々と動物たちが鳴きながら集まってきて、大きなまあるい輪ができた。ぐるぐる ぐるぐる まわってまわって、ちいさな ちいさな ちいさな輪になって…。にらめっこしましょう、あっぷっぷー。歌って遊べる楽しい1冊。「たんぽぽえほんシリーズ」。

＜絵本—3, 4歳から＞

『こんにちは!わたしのえ』 はたこうしろう/作 ほるぷ出版 2020.7 ¥1400

青色絵の具をたっぷり筆にふくませて、まっしろの紙の上におもいきってぐっちゃん！あっという間にうまれてきたのは？てんてんてん、いろんな色で光のつぶを置いていくよ。ぐるぐるぼたぼた。今度は手のひらにも足の裏にも塗りたい。筆になったわたしの手は大喜び。一度はやってみたい、まねしてみたい、大胆に体を使った絵の具による表現の絵本。

＜絵本—5, 6歳から＞

『ぼくといっしょに』 シャルロット・デマトーン/作 野坂悦子/訳 ブロンズ新社 2020.6 ¥1400

母さんにたのまれたおつかいでりんごを買いに行くよ。ぼくといっしょに来る？始めに通るのは世界で一番恐い森。ドラゴンに大男に岩山。海を通るときには、海賊にも気を付けなさい。無事におつかいできるかな。家の隣りにある八百屋に行くために、小さな男の子が大きな想像力ではらはらどきどきの冒険を楽しむ作品。オランダのベストセラー絵本。

＜絵本—小学校低学年から＞

『ファイアー』 長谷川集平/作 理論社 2020.6 ¥1400

サイレンの音で夜中に目を覚ましたぼく。駅の向こうのかおるちゃんのマンションのあたりが火事だ。かおるちゃん、大丈夫かな？翌朝、学校を休んだかおるちゃん。でもマンションは無事で、かおるは明日からは学校へ来れるらしい。放課後、避難している体育館へ寄って見たら、かおるちゃんは意外と元気で安心したよ。ベテラン絵本作家による5年ぶりの描き下ろし絵本。

＜絵本—小学校中学年から＞

『わっしょい 深川八幡水かけ祭り』 やじまますみ/作 富岡八幡宮/監修 ポプラ社 2020.7 ¥1600

江戸三大祭りのひとつに数えられる深川八幡祭り、別名「水かけ祭り」。今年は3年に1度の本祭りの年。3日の日程で、53基ものお神輿がでて、町は大盛り上がり。ぼくみたいな子どもが担ぐお神輿もあるよ。お神輿お遊びたひこ、右から左から水をかけられるんだ。深川八幡祭りの様子を、氏子町内会の生まれである作者が、少年の視点で描いて紹介した絵本。

『あべ弘士のシートン動物記① オオカミ王ロボ』 E.T. シートン/原作 あべ弘士/文・絵 学研プラス 2020.7 ¥1400

アメリカのラカンポー平原の牛をねらうオオカミ、その名は「ロボ」。被害に苦しむ牧場主から、捕まえてほしいと依頼されたシートンは、毒餌、鉄のわなと、様々な方法でロボを仕留めようとするがごとく失敗。ロボに弱点はないのか。人間との戦いを通して、オオカミたちの強く気高い生き様を描いた名作を、旭山動物園の飼育係を25年務めた作者が絵本化した作品。

＜読み物—小学校低学年から＞

『こぐまと星のハーモニカ』 赤羽じゅんこ/作 小池アミイゴ/絵 フレーベル館 2020.7 ¥1100

夏休みの最初の日に、一番の仲良しのたっくんとかんかしてしまったゴウ。いろんなことをして遊ぼうと思っていたのにと、悔しくて眠れないでいるところにやってきたのは、こぐま。お兄ちゃんとかんかして家出てきたと言う。こぐまのおかげで、ひとりぼっちの夏休みを過ごさずにすんだゴウだったが…。素直な気持ちを表せないゴウに寄り添うこぐまの温かさが溢れるお話。

『本屋のミミ、おでかけする!』 森環/作 あかね書房 2020.5 ¥1200

店主のおじいさんと孫娘ミミが営むとある本屋さん。本に日が当たらないようにと地下に店を構えている。本のことには詳しいミミだが、その他のことははたんでため。自信がないので、外に出かけることができない。ある日、常連の絵かきさんが足を骨折してお店に来れないことを知って、どうしてもお見舞いに行きたくなったミミ。さて、家まで無事にたどり着けるのか?鉛筆画が美しい絵童話。

<読み物一小学校中学年から>

『ぼくとキキとアトリエで』 中川洋典/作 文研出版 2020.5 ¥1300

ぼくは絵を描くのが大好き。アトリエキキでみんなと一緒に絵を描くのはもっと楽しい。一緒にメンバーは、小3のぼくを含めた8人とキキ先生。このアトリエも、アトリエのある商店街も大好きなメンバーが、改装間近の商店街の思い出を残そうととった行動とは?作者が、2010年8月から1年間通った画塾での体験をもとに創作。毎日新聞連載に加筆修正してまとめた作品。

<読み物一小学校高学年から>

『囚われのアマル』 アイシャ・サイド/作 相良倫子/訳 さ・え・ら書房 2020.4 ¥1600

12歳のアマルはパキスタンの4人姉妹の長女。母の5人目の出産後、アマルは学校を休んで家事や妹の面倒に奔走していた。ある時、アマルは父親の借金のかたにカーン一族の使用人になることに。学校へも行けず、自由も夢も奪われたアマル。このままこの強制労働を続けるのか、危険にさらされても正しい道を主張するのか。マラ・ユスフザイに勇気をもたらした作者が綴る応援の物語。

<読み物一中学生から>

『イーブン』 村上しいこ/作 小学館 2020.6 ¥1400

父親のDVによる離婚、不登校、母親との関係もぎくしゃくする中で、あたしに声を掛け、関わってくれた16歳の少年トム。彼の複雑な生い立ちを少しずつ知る中で、「イーブンな関係」として、彼にだけは自分の考えを語れるようになり、ちよっぴり恋心も。彼の影響で両親に対する見方や同級生に対する見方も変わってきて…。中1の少女・美桜里の成長物語。

『どうぞ愛をお呼びください』 武田綾乃/著 新潮社 2020.6 ¥1350

「ユーチューバーやろうぜ」、動画編集が趣味の僕に、幼馴染が持ち掛けてきた話にびっくり!やるなら4人組のゲーム実況がいいと考えた僕だが、タイプの異なる個性的なメンバーにタジタジ。動画投稿も軌道に乗り始めたある日、なんと再生回数がいきなり二百万回に!現役男子高校生のゲーム動画が面白すぎとバズったのはいいが…。若手作家によるテンポの良い友情物語。

『夜フクロウとドッグフィッシュ』 ホリー・ゴールドバーグ・スローン、メグ・ウォリツァー/作 三辺律子/訳 小学館 2020.7 ¥1500

知らない人から「そっちのお父さんとうちのお父さんは付き合ってるんだよね」というメールが。互いの娘を仲良くさせるために、夏休みに同じキャンプに参加させようとしているという。2人は絶対に仲良くしないと約束したが、いつの間にか大親友に。一方、父親たちは…。ロサンゼルスとニューヨークをつなぐ12歳の少女のSNS小説。「SUPER!YA」シリーズ。

<ノンフィクション一小学校低学年から>

『うみのダンゴムシ・やまのダンゴムシ』 皆越ようせい/写真・文 岩崎書店 2020.6 ¥1600

学校の校庭や公園で見かけるのは、町のダンゴムシの「オカダンゴムシ」。なかなか見つからないけれど、日本の海岸にいる海のダンゴムシが「ハマダンゴムシ」。落ち葉やくさりかけた木を食べている森のそうじ屋さんが、森のダンゴムシの「コシビロダンゴムシ」。ダンゴムシの体のつくりや食べ物、よく見られる場所を紹介する写真絵本。「ちしきのぼけっと」シリーズ。

<ノンフィクション一小学校中学年から>

『環境破壊モンスターから地球を救おう!』 マリー・G.ローデ/著 小林玲子/訳 河出書房新社 2020.7 ¥2100

大気汚染は「ドクモクモク」、食品ロス「ザンパーン」、油流出は「アブラネパール」、地球温暖化は「ジュージュードラゴン」。環境破壊を、イメージしやすい名前のモンスターに見立て、地球を脅かしている現状や、モンスターをやっつける方法を教える。環境問題を楽しくわかりやすく学べる絵本。モンスターの特徴が整理された、モンスターカードの一覧付き。

<ノンフィクション一小学校高学年から>

『ウルド昆虫記/バッタを倒しにアフリカへ』 前野ウルド浩太郎/著 光文社 2020.5 ¥1800

『ファーブル昆虫記』に感動し、将来は昆虫学者になろうと心に誓っていた著者が、バッタ被害を食い止めるため単身サハラ砂漠に乗り込み、バッタと大人の事情を相手に繰り広げた死闘の日々を綴る。2017年発行『バッタを倒しにアフリカへ』(光文社新書)の児童書版。難しい漢字にはルビをふり、本文のわきに作者なりのプチ辞典を本書の「取扱説明書」として付け加えた。

『グレタ・トゥーンベリ』 ヴィヴィアナ・マツツァ/著 赤塚きょう子/訳 金の星社 2020.4 ¥1300

2018年8月下旬に「気候のための学校ストライキ」を始めた、グレタ・トゥーンベリ。グレタが求めたのは既に進んでいる気候変動を止めるために、大気中の温室効果ガスを大幅に減らすこと。その後、日本を始め多くの国々でたくさんの生徒たちがこのストライキを行い、グレタは地球環境保護活動のリーダーになった。何が彼女をつき動かしているのか。巻末に2つのスピーチを掲載。

<ノンフィクション一中学生から>

『トムソーヤーを育てる水族館』 安部義孝/著 新日本出版社 2020.6 ¥1500

「アクアマリンふくしま」の館長が、幼少期から現在に至るまでの様々な人との出会いや、水族館づくりに携わりながらチャレンジし続けてきたエピソードを楽しく語る。トム・ソーヤーのように「面白がる気持ち」を大切に、「タッチプール」や「マグロの周遊水槽」、「7つの海のサカナの採集」など、誰もやったことのないことを思いつき、実現させてきた著者の魅力的な話が満載。

『恐竜まみれ 発掘現場は今日も命がけ!』 小林快次/著 新潮社 2019.6 ¥1450

ゴビ砂漠やアラスカなどを中心に数々の貴重な恐竜化石を発掘してきた恐竜学者のスリリングな発掘記。アジアの研究仲間やアマチュアの発掘ツアーの人たちと協力した大発見、恐竜界50年の謎であった恐ろしい腕の「デイノケイルス」発掘、日本初の全身骨格「むかわ竜」の発掘など、危険と隣り合わせの大自然の中、自らの手で新しい恐竜を発見し、その謎を紐解く喜びを語る。

<研究書>

『もうひとつの空の飛び方』 『枕草子』から『ナルニア国』まで』 荻原規子/著 KADOKAWA 2020.7 ¥680

『空色勾玉』でデビューし、『西の善き魔女』シリーズや『RDGレッドデータガール』シリーズなど日本の長編ファンタジー作家の先駆けでもある著者が、自身の読書遍歴や、ファンタジーへの思いを綴るエッセイ集。執筆当時の「ハリーポッター」などのファンタジーブームが反映されているのも興味深い。「ファンタジーのDNA」(理論社 2006年刊)の改題、加筆修正。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。